

7:53 「人々はそれぞれ家に帰って行った。

8:1 イエスはオリーブ山に行かれた。

8:2 そして朝早く、イエスは再び宮に入られた。人々はみな、みもとに寄って来た。イエスは腰を下ろして、彼らに教え始められた。

8:3 すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕らえられた女を連れて来て、真ん中に立たせ、

8:4 イエスに言った。「先生、この女は姦淫の現場で捕らえられました。

8:5 モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするよう私たちに命じています。あなたは何と言われますか。」

8:6 彼らはイエスを告発する理由を得ようと、イエスを試みてこう言ったのであった。だが、イエスは身をかがめて、指で地面に何か書いておられた。

8:7 しかし、彼らが問い続けるので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい。」

8:8 そしてイエスは、再び身をかがめて、地面に何かを書き続けられた。

8:9 彼らはそれを聞くと、年長者たちから始まり、一人、また一人と去って行き、真ん中にいた女とともに、イエスだけが残された。

8:10 イエスは身を起こして、彼女に言われた。

「女の人よ、彼らはどこにいますか。だれもあなたにさばきを下さなかったのですか。」

8:11 彼女は言った。「はい、主よ。だれも。」イエスは言われた。「わたしもあなたにさばきを下さない。行きなさい。これから



は、決して罪を犯してはなりません。」」

人が人をさばく、すなわち罪に定めるといふことの問題がここにあります。彼らは律法を盾にしていますから、全く正しいということができます。その点においては、彼らのしていることは一点の批判もできません。しかし、主イエスはそれを放置しませんでした。

「罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい」と言われたのです。誰も投げることはできませんでした。イエス様は訴える者たちを告発するわけではありませんでしたが、結局この女性をさばく資格のある者はないのだということを、悟らせたのです。

神様の赦しがここにあります。罪をさばく律法は有効です。罪は裁かれなければなりません。しかし人がさばくのではないのです。神様がだけがさばく資格をお持ちです。しかし、その神様は「わたしもあなたにさばきそ下さない。」と仰ってくださいました。それは罪の身代わりになってくださったイエス様だからいえることなのです。

感謝しましょう。そして「これからは決して罪を犯してはなりません。」との愛のことばを、心に受けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

